

平成29年度 継続中事業の自己評価結果

年 度	再評価時点			継続 A～C の現状			自己評価の結果※2	
	再評価 事業数	継続 A～C ※1	D、E ※1	継続事業 【自己評価対 象事業】	完 了	計画廃止等	○	×
平成25年度	25事業	25事業	—	25事業	—	—	19事業	6事業
平成26年度	10事業	9事業	1事業	9事業	—	—	5事業	4事業
平成27年度	2事業	2事業	—	2事業	—	—	1事業	1事業
計	37事業	36事業	1事業	36事業	—	—	25事業	11事業

※1 【対応方針】

事業継続(A)：完了時期を宣言し、重点的に実施するもの

事業継続(B)：予算の範囲内で着実に継続実施するもの

事業継続(C)：限定的な実施にとどまるもの

事業休止(D)：複数年にわたって予算執行を行わないもの

事業中止(E)：事業を中止するもの

※2 【自己評価結果】

○：取組方針に沿って事業を実施できた

×：取組方針に沿って事業を実施できなかった。

事業再評価後の取組状況 - 平成25年度 再評価実施事業

【対応方針】 事業継続(A)：完了時期を宣言し、重点的に実施するもの
 事業継続(B)：予算の範囲内で着実に継続実施するもの
 事業継続(C)：限定的な実施にとどまるもの

【自己評価結果】 ○：取組方針に沿って事業を実施できた
 ×：取組方針に沿って事業を実施できなかった。

番号	事業種別 事業名	事業の概況	対応 方針	今後の取組方針	自己評価 [進捗率]				自己評価の判定理由 (28年度の取組状況等)	改善策及び今後の取組方針等 (評価結果が×の場合)
					26年度	27年度	28年度	29年度		
H25 -01	街路 [建設局] 北野今市線整 備事業	事業開始 S45 完了予定 H30 総事業費 329億円 既投資額 314億円 進捗率 95%	事業 継続 (A)	今後も重点的に予算を配分し、用 地取得のために継続して権利者との 交渉に臨むとともに、用地確保済み 区間から工事を実施して平成30年度 での事業完了をめざす。	×	○	○		・「都市計画道路の整備プログ ラム」(H28.9)の策定にあたり、都市計画道路の整備の進め 方(重点化の考え方)を改めて 整理した結果、本路線におい ては予定年度での完了を見込んで いる。 ・なお、取組方針のとおり用地 交渉や埋設企業体等との調整を 行う等、事業進捗を図った。	
					96%	97%	97%			
H25 -02	街路 [建設局] 生玉片江線整 備事業	事業開始 S46 完了予定 H30 (H29) 総事業費 214億円 既投資額 205億円 進捗率 95%	事業 継続 (A)	今後も道路整備による事業効果を 早期に発現させるため、重点的に予 算を配分し、工事を実施して事業完 了をめざす。	×	×	○		・「都市計画道路の整備プログ ラム」(H28.9)の策定にあたり、都市計画道路の整備の進め 方(重点化の考え方)を改めて 整理した結果、本路線におい ては予定年度での完了を見込んで いる。 ・なお、取組方針のとおり重点 的に予算を確保し、工事を実施 した。	
					96%	98%	98%			
H25 -03	街路 [建設局] 歌島豊里線整 備事業	事業開始 S48 完了予定 H30 総事業費 247億円 既投資額 232億円 進捗率 94%	事業 継続 (A)	本路線は、用地取得難航により事 業が長期化していたが、用地取得の 目途も立っており、重点整備路線と して重点的に予算を確保し、用地取 得完了後集中的に工事を実施し、現 在施工中の一部区間は完成しだい部 分開通を見込んでいる。また、残る 区間についても、連続立体交差事業 の進捗に合わせ、平成30年度での完 了に向けて重点的に事業を実施す る。	○	○	○		・「都市計画道路の整備プログ ラム」(H28.9)の策定にあたり、都市計画道路の整備の進め 方(重点化の考え方)を改めて 整理した結果、本路線におい ては予定年度での完了を見込んで いる。 ・なお、取組方針のとおり、鉄 道との交差部を除く一部区間 について工事を実施し、平成28年 度に完了した。残る区間につい ても連続立体交差事業の進捗に 合わせて事業を実施することと している。	
					95%	97%	98%			

事業再評価後の取組状況 - 平成25年度 再評価実施事業

【対応方針】 事業継続(A)：完了時期を宣言し、重点的に実施するもの
 事業継続(B)：予算の範囲内で着実に継続実施するもの
 事業継続(C)：限定的な実施にとどまるもの

【自己評価結果】 ○：取組方針に沿って事業を実施できた
 ×：取組方針に沿って事業を実施できなかった。

番号	事業種別 事業名	事業の概況	対応 方針	今後の取組方針	自己評価 [進捗率]				自己評価の判定理由 (28年度の取組状況等)	改善策及び今後の取組方針等 (評価結果が×の場合)
					26年度	27年度	28年度	29年度		
H25-04	街路 [建設局] 本庄西天満線 (神山)整備事業	事業開始 H6 完了予定 H30 (H38以降) 総事業費 191億円 既投資額 163億円 進捗率 85%	事業 継続 (B)	今後も予算の範囲内で着実な事業 実施に努め、平成30年度での完了を めざす。	○	○	×		・「都市計画道路の整備プログラ ム」(H28.9)の策定にあたり、都市計画道路の整備の進め 方(重点化の考え方)を改めて 整理した結果、本路線において は完了予定年度を見直すことと なった。 ・なお、予算の範囲内で再取得 を実施した。	今後も予算の範囲内で着実 な事業実施に努める。
					86%	86%	86%			
H25-05	街路 [建設局] 東野田河堀口 線(大手前)整 備事業	事業開始 S56 完了予定 H30 (H33~H37) 総事業費 22億円 既投資額 14億円 進捗率 64%	事業 継続 (B)	今後も予算の範囲内で着実な事業 実施に努め、平成30年度での完了を めざす。	○	○	×		・「都市計画道路の整備プログラ ム」(H28.9)の策定にあたり、都市計画道路の整備の進め 方(重点化の考え方)を改めて 整理した結果、本路線において は完了予定年度を見直すことと なった。 ・なお、用地交渉を行う等、事 業進捗を図った。	今後も予算の範囲内で着実 な事業実施に努める。
					65%	65%	65%			
H25-06	街路 [建設局] 田辺出戸線 (長吉出戸)整 備事業	事業開始 S57 完了予定 H29 総事業費 36億円 既投資額 34億円 進捗率 94%	事業 継続 (B)	今後も予算の範囲内で着実な事業 実施に努め、平成29年度での完了を めざす。	×	○	○		・「都市計画道路の整備プログラ ム」(H28.9)の策定にあたり、都市計画道路の整備の進め 方(重点化の考え方)を改めて 整理した結果、本路線において は予定年度での完了を見込んで いる。 ・なお、用地交渉を行う等、取 組方針のとおり事業進捗を図っ た。	
					96%	96%	97%			

事業再評価後の取組状況 - 平成25年度 再評価実施事業

【対応方針】 事業継続(A)：完了時期を宣言し、重点的に実施するもの
 事業継続(B)：予算の範囲内で着実に継続実施するもの
 事業継続(C)：限定的な実施にとどまるもの

【自己評価結果】 ○：取組方針に沿って事業を実施できた
 ×：取組方針に沿って事業を実施できなかった。

番号	事業種別 事業名	事業の概況	対応 方針	今後の取組方針	自己評価 [進捗率]				自己評価の判定理由 (28年度の取組状況等)	改善策及び今後の取組方針等 (評価結果が×の場合)
					26年度	27年度	28年度	29年度		
H25 -07	街路 [建設局] 長吉線整備事 業	事業開始 S64 完了予定 H29 総事業費 33億円 既投資額 33億円 進捗率 99%	事業 継続 (B)	今後も予算の範囲内で着実な事業 実施に努め、平成29年度での完了を めざす。	×	○	○		・「都市計画道路の整備プログ ラム」(H28.9)の策定にあたり、都市計画道路の整備の進め 方(重点化の考え方)を改めて 整理した結果、本路線において は予定年度での完了を見込んで いる。 ・なお、用地交渉を行う等、取 組方針のとおり事業進捗を図っ た。	
					99%	99%	99%			
H25 -08	街路 [建設局] 尼崎平野線 (山王)整備事 業	事業開始 S50 完了予定 H29 (H33~H37) 総事業費 47億円 既投資額 18億円 進捗率 39%	事業 継続 (B)	今後も予算の範囲内で着実な事業 実施に努め、平成29年度での完了を めざす。	○	○	×		・「都市計画道路の整備プログ ラム」(H28.9)の策定にあたり、都市計画道路の整備の進め 方(重点化の考え方)を改めて 整理した結果、本路線において は完了予定年度を見直すことと なった。 ・なお、用地交渉を行う等、事 業進捗を図った。	今後も予算の範囲内で着実 な事業実施に努める。
					43%	44%	47%			
H25 -09	街路 [建設局] 生野線整備事 業	事業開始 S60 完了予定 H31 総事業費 40億円 既投資額 37億円 進捗率 91%	事業 継続 (B)	今後も予算の範囲内で着実な事業 実施に努め、平成31年度での完了を めざす。	○	○	○		・「都市計画道路の整備プログ ラム」(H28.9)の策定にあたり、都市計画道路の整備の進め 方(重点化の考え方)を改めて 整理した結果、本路線において は予定年度での完了を見込んで いる。 ・なお、取組方針のとおり予算 の範囲内で用地取得を実施し た。	
					91%	91%	91%			

事業再評価後の取組状況 - 平成25年度 再評価実施事業

【対応方針】 事業継続(A)：完了時期を宣言し、重点的に実施するもの
 事業継続(B)：予算の範囲内で着実に継続実施するもの
 事業継続(C)：限定的な実施にとどまるもの

【自己評価結果】 ○：取組方針に沿って事業を実施できた
 ×：取組方針に沿って事業を実施できなかった。

番号	事業種別 事業名	事業の概況	対応 方針	今後の取組方針	自己評価 [進捗率]				自己評価の判定理由 (28年度の取組状況等)	改善策及び今後の取組方針等 (評価結果が×の場合)
					26年度	27年度	28年度	29年度		
H25 -10	街路 [建設局] 豊里矢田線 (鳴野・蒲生) 整備事業	事業開始 S61 完了予定 H34 (H38以降) 総事業費 150億円 既投資額 98億円 進捗率 65%	事業 継続 (C)	限られた予算の中で本路線への重点的な予算配分は難しく、事業完了には長期間を要するが、順次買収要望への対応等、限定的な事業実施とする。	○	×	×		・「都市計画道路の整備プログラム」(H28.9)の策定にあたり、都市計画道路の整備の進め方(重点化の考え方)を改めて整理した結果、本路線においては完了予定年度を見直すこととなった。 ・なお、買収要望への対応等、限定的ではあるが事業進捗を図った。	・今後も限られた予算の中で本路線への重点的な予算配分は難しく、事業完了には長期間を要するが、順次買収要望への対応等、限定的な事業実施とする。
					66%	66%	66%			
H25 -11	街路 [建設局] 正蓮寺川北岸 線(伝法)整備 事業	事業開始 S64 完了予定 H34 (H38以降) 総事業費 68億円 既投資額 21億円 進捗率 31%	事業 継続 (C)	本路線は、重点的な予算配分が難しく、買収要望への対応など限定的な事業実施となり、事業完了には長期間を要するが、今後、重点整備路線の収束に伴い、予算の確保ができ次第、残る用地取得と道路整備を進め、事業効果の早期発現に努める。	○	○	×		・「都市計画道路の整備プログラム」(H28.9)の策定にあたり、都市計画道路の整備の進め方(重点化の考え方)を改めて整理した結果、本路線においては完了予定年度を見直すこととなった。 ・なお、買収要望への対応等、限定的ではあるが事業進捗を図った。	・今後も限られた予算の中で本路線への重点的な予算配分は難しく、事業完了には長期間を要するが、順次買収要望への対応等、限定的な事業実施とする。
					41%	41%	41%			
H25 -12	街路 [建設局] 尼崎堺線(住 之江)整備事 業	事業開始 H6 完了予定 H34 総事業費 12億円 既投資額 8億円 進捗率 63%	事業 継続 (C)	本路線は、重点的な予算配分が難しく、買収要望への対応など限定的な事業実施となり、事業完了には長期間を要するが、今後、重点整備路線の収束に伴い、予算の確保ができ次第、残る用地取得と道路整備を進め、事業効果の早期発現に努める。	○	○	○		・「都市計画道路の整備プログラム」(H28.9)の策定にあたり、都市計画道路の整備の進め方(重点化の考え方)を改めて整理した結果、本路線においては予定年度での完了を見込んでいる。 ・なお、取組方針のとおり買収要望への対応等、限定的ではあるが事業進捗を図った。	
					64%	64%	64%			

事業再評価後の取組状況 - 平成25年度 再評価実施事業

【対応方針】 事業継続(A)：完了時期を宣言し、重点的に実施するもの
 事業継続(B)：予算の範囲内で着実に継続実施するもの
 事業継続(C)：限定的な実施にとどまるもの

【自己評価結果】 ○：取組方針に沿って事業を実施できた
 ×：取組方針に沿って事業を実施できなかった。

番号	事業種別 事業名	事業の概況	対応 方針	今後の取組方針	自己評価 [進捗率]				自己評価の判定理由 (28年度の取組状況等)	改善策及び今後の取組方針等 (評価結果が×の場合)
					26年度	27年度	28年度	29年度		
H25-13	街路 [建設局] 中之島歩行者 専用道2号線 整備事業	事業開始 H9 完了予定 H33 総事業費 23億円 既投資額 22億円 進捗率 96%	事業 継続 (C)	本路線の整備は、平成28年度に事業化を予定している中之島5丁目開発における土地利用計画や開発手法等の検討にあわせて調整を進めている。特に、本路線は、河川堤防天端部に計画していることから、現況道路と最大で4m程度の高低差が生じるため、開発計画との調整が必要となっている。このことから、単独で事業を進めるのではなく開発計画にあわせて事業を実施する予定である。	○	○	○		・合わせて事業を実施する予定の中之島5丁目開発の事業化はされなかったものの、土地利用計画や開発手法等の検討にあわせて本路線の整備に関する調整を進めた。	
					96%	96%	96%			
H25-14	道路 [建設局] 国道479号清 水共同溝整備 事業	事業開始 H11 完了予定 H29 (H32) 総事業費 110億円 既投資額 65億円 進捗率 59%	事業 継続 (A)	今後、埋設企業体(水道局)との支障物撤去に関する協議・調整を早期に終了させ、平成29年度での事業完了をめざす。	×	○	×		・中間立坑工事に支障となる占用物について関係先との調整に時間を要したため、平成29年度中の完了が困難となり、完了予定年度の見直しを行った。 ・共同溝内のインバート工事が完了し、一定の進捗を図ることができた。	・今後も共同溝整備による事業効果を早期に発現させるため、工事の進捗を図り平成32年度の事業完了をめざす。
					68%	80%	87%			
H25-15	都市公園 [建設局] 鶴見緑地事業	事業開始 S41 完了予定 H29 総事業費 1,275億円 既投資額 1,272億円 進捗率 99%	事業 継続 (B)	平成26年度以降も事業者公募による事業の取組みにより、平成29年度での事業完了をめざす。	○	○	○		民間活力導入も含め、引き続き整備手法について検討している。	
					99%	99%	99%			
H25-16	都市公園 [建設局] 毛馬桜之宮公 園事業	事業開始 S42 完了予定 H35 総事業費 166億円 既投資額 147億円 進捗率 89%	事業 継続 (C)	現在の厳しい予算状況の中、本公園については平成26年度以降も当面の間は占用等の河川敷における権利関係の整理が完了した区域について整備を行うなど限定的な事業実施となり、事業完了には長期間を要するが、事業効果の早期発現に努める。	○	○	○		占用等の河川敷における権利関係において、引き続き関係部署と協議を行いながら、事業の前進に努めた。	
					89%	91%	91%			

事業再評価後の取組状況 - 平成25年度 再評価実施事業

【対応方針】 事業継続(A)：完了時期を宣言し、重点的に実施するもの
 事業継続(B)：予算の範囲内で着実に継続実施するもの
 事業継続(C)：限定的な実施にとどまるもの

【自己評価結果】 ○：取組方針に沿って事業を実施できた
 ×：取組方針に沿って事業を実施できなかった。

番号	事業種別 事業名	事業の概況	対応 方針	今後の取組方針	自己評価 [進捗率]				自己評価の判定理由 (28年度の取組状況等)	改善策及び今後の取組方針等 (評価結果が×の場合)
					26年度	27年度	28年度	29年度		
H25 -17	都市公園 [建設局] 巽公園事業	事業開始 S63 完了予定 H29 総事業費 163億円 既投資額 157億円 進捗率 96%	事業 継続 (C)	現在の厳しい予算状況の中、本公園の未取得用地については平成26年度以降も引き続き地権者の買取り要望に応じた用地買収を行うとともに、取得済み区域について整備を行うなど限定的な事業実施となり、事業完了には長期間を要するが、事業効果の早期発現に努める。	○	○	○		公園整備を行うにあたり、敷地境界の確認を行うなど、事業の前進に努めた。	
					96%	97%	97%			
H25 -18	都市公園 [建設局] 中之島西公園事業	事業開始 S53 完了予定 H29 総事業費 54億円 既投資額 53億円 進捗率 98%	事業 継続 (C)	現在の厳しい予算状況の中、本公園の未取得用地については平成26年度以降も引き続き地権者の買取り要望に応じた用地買収を行うとともに、取得済み区域について整備を行うなど限定的な事業実施となり、事業完了には長期間を要するが、事業効果の早期発現に努める。	○	○	○		取得済みの区域について、平成28年度に一部公園開設を行った。	
					98%	98%	98%			
H25 -19	土地区画整理 [都市整備局] 三国東地区土 地区画整理事業	事業開始 H11 完了予定 H32 総事業費 474億円 既投資額 198億円 進捗率 42%	事業 継続 (B)	今後も事業効果の早期発現を図るため、効果的な移転手法（一斉移転や換地変更など）を検討し、整備が急がれている地区北部エリアの権利者の仮換地先（移転先）である地区南エリアを平成26年度に概成するとともに、事業全体では平成32年度での完了をめざす。	○	○	○		平成32年度の事業完了を目指して事業全体のスケジュールを組織内で共有し、厳格に進行管理を行うことで、効果的な中断移転と事業効果の高い都市計画道路上の用地取得を実施した。	
					50%	54%	57%			
H25 -20	土地造成 [港湾局] 第6貯木場土 地造成事業	事業開始 H8 完了予定 H30 総事業費 61億円 既投資額 51億円 進捗率 84%	事業 継続 (A)	今後も引き続き、阪神高速大和川線シールド工事と連携しながら事業の進捗を図り、平成30年度での完了に向けて重点的に事業を実施する。	○	○	○		阪神高速道路株式会社との共同事業で進めてきた埋立工事について、発生土砂の受入れが平成28年12月に完了し、平成29年3月23日に埋立竣工した。	
					87%	88%	88%			

事業再評価後の取組状況 - 平成25年度 再評価実施事業

【対応方針】 事業継続(A)：完了時期を宣言し、重点的に実施するもの
 事業継続(B)：予算の範囲内で着実に継続実施するもの
 事業継続(C)：限定的な実施にとどまるもの

【自己評価結果】 ○：取組方針に沿って事業を実施できた
 ×：取組方針に沿って事業を実施できなかった。

番号	事業種別 事業名	事業の概況	対応 方針	今後の取組方針	自己評価 [進捗率]				自己評価の判定理由 (28年度の取組状況等)	改善策及び今後の取組方針等 (評価結果が×の場合)
					26年度	27年度	28年度	29年度		
H25 -21	土地造成 [港湾局] 夢洲土地造成 事業	事業開始 H3 完了予定 H50 総事業費 1,390億円 既投資額 552億円 進捗率 40%	事業 継続 (A)	夢洲は、新たな観光拠点の形成に向けた検討を行っており、平成28年度中に策定予定の「夢洲まちづくり構想」(素案)を踏まえ、順次土地造成及び基盤整備を行う。	○ 41%	× 42%	○ 42%		夢洲は、夢洲まちづくり構想(案)を踏まえた新たな国際観光拠点の形成に取り組むこととしており、土地造成や基盤整備の実施は、IRや万博について決定する平成30年度以降となるため、平成28年度は市内で発生した陸上発生残土等の受入を実施するにとどめている。	
H25 -22	河川 [建設局] 城北川改修事 業	事業開始 S60 完了予定 H29 総事業費 472億円 既投資額 467億円 進捗率 99%	事業 継続 (A)	平成28年度も継続的に事業進捗を図ると共に、早期の事業完了に向けた取組みを進め、平成29年度での完成を目指す。	× 99%	× 99%	○ 99%		継続的に事業進捗を図り、取組方針のとおり実施できた。	
H25 -23	下水道 [建設局] 大阪市公共下 水道事業(技 本的浸水対策 事業)	事業開始 S56 完了予定 H50 総事業費 9,600億円 既投資額 6,629億円 進捗率 69%	事業 継続 (A)	今後も引き続き、コスト削減や効果の早期発現を図りながら、平成50年度での事業完了をめざして重点的に事業を実施する。	○ 70%	○ 70%	○ 71%		平成28年度は大隅～十八条幹線、新今里～寺田町幹線、此花下水処理場内ポンプ場の抜本的な浸水対策を進捗させるなど、引き続き重点的に取り組んでおり、取組方針に沿って事業を実施できている。	
H25 -24	下水道 [建設局] 大阪市公共下 水道事業(合 流式下水道改 善事業)	事業開始 H3 完了予定 H35 総事業費 2,000億円 既投資額 912億円 進捗率 46%	事業 継続 (B)	今後も引き続き、コスト削減や効果の早期発現を図りながら、予算の範囲内で着実に事業実施に努め、平成35年度での事業完了をめざす。	○ 48%	○ 48%	○ 51%		平成28年度は、住之江下水処理場雨水滞水池工事等を進捗させるなど、引き続き着実に取り組んでおり、取組方針に沿って事業を実施できている。	
H25 -25	下水道 [建設局] 大阪市公共下 水道事業(高 度処理事業)	事業開始 H19 完了予定 H37 総事業費 350億円 既投資額 15億円 進捗率 4%	事業 継続 (B)	今後も引き続き、コスト削減や効果の早期発現を図りながら、老朽設備の更新に合わせて着実に事業実施に努め、平成37年度での事業完了をめざす。	○ 6%	○ 8%	○ 8%		平成28年度は、海老江下水処理場改築更新に関連する事業を進捗させるなど、引き続き着実に取り組んでおり、取組方針に沿って事業を実施できている。	

事業再評価後の取組状況 - 平成26年度 再評価実施事業

【対応方針】 事業継続(A)：完了時期を宣言し、重点的に実施するもの
 事業継続(B)：予算の範囲内で着実に継続実施するもの
 事業継続(C)：限定的な実施にとどまるもの

【自己評価結果】 ○：取組方針に沿って事業を実施できた
 ×：取組方針に沿って事業を実施できなかった。

番号	事業種別 事業名	事業の概況	対応 方針	今後の取組方針	自己評価 [進捗率]				自己評価の判定理由 (28年度の取組状況等)	改善策及び今後の取組方針等 (評価結果が×の場合)
					27年度	28年度	29年度	30年度		
H26-01	街路 [建設局] 新庄長柄線 (菅原)整備事業	事業開始 H7 完了予定 H30 (H38以降) 総事業費 67億円 既投資額 37億円 進捗率 55%	事業 継続 (C)	今後も限られた予算の中で本路線への重点的な予算の配分は難しいため、順次買収要望への対応等、限定的な事業実施とする。	○	×			・「都市計画道路の整備プログラム」(H28.9)の策定にあたり、都市計画道路の整備の進め方(重点化の考え方)を改めて整理した結果、本路線においては完了予定年度を見直すこととなった。 ・なお、買収要望への対応等、限定的ではあるが事業進捗を図った。	・今後も限られた予算の中で本路線への重点的な予算配分は難しく、事業完了には長期間を要するが、順次買収要望への対応等、限定的な事業実施とする。
H26-02	街路 [建設局] 大和川北岸線 (公園南矢田) 整備事業	事業開始 H7 完了予定 H29 総事業費 27億円 既投資額 26億円 進捗率 96%	事業 継続 (B)	今後も予算の範囲内で着実な事業実施に努め、早期の完了をめざす。	○	○			・「都市計画道路の整備プログラム」(H28.9)の策定にあたり、都市計画道路の整備の進め方(重点化の考え方)を改めて整理した結果、本路線においては予定年度での完了を見込んでいる。 ・なお、取組方針のとおり予算の範囲内で用地取得を実施した。	
H26-03	街路 [建設局] 桜島東野田線 (四貫島)整備 事業	事業開始 H12 完了予定 H30 (H33~H37) 総事業費 33億円 既投資額 24億円 進捗率 73%	事業 継続 (B)	今後も予算の範囲内で着実な事業実施に努め、早期の完了をめざす。	○	×			・「都市計画道路の整備プログラム」(H28.9)の策定にあたり、都市計画道路の整備の進め方(重点化の考え方)を改めて整理した結果、本路線においては完了予定年度を見直すこととなった。 ・なお、予算の範囲内で再取得を実施した。	今後も予算の範囲内で着実な事業実施に努める。

事業再評価後の取組状況 - 平成26年度 再評価実施事業

【対応方針】 事業継続(A)：完了時期を宣言し、重点的に実施するもの
 事業継続(B)：予算の範囲内で着実に継続実施するもの
 事業継続(C)：限定的な実施にとどまるもの

【自己評価結果】 ○：取組方針に沿って事業を実施できた
 ×：取組方針に沿って事業を実施できなかった。

番号	事業種別 事業名	事業の概況	対応 方針	今後の取組方針	自己評価 [進捗率]				自己評価の判定理由 (28年度の取組状況等)	改善策及び今後の取組方針等 (評価結果が×の場合)
					27年度	28年度	29年度	30年度		
H26 -04	街路 [建設局] 東野田河堀口 線(上本町)整 備事業	事業開始 H12 完了予定 H31 (H38以降) 総事業費 50億円 既投資額 19億円 進捗率 39%	事業 継続 (C)	今後も限られた予算の中で本路線 への重点的な予算の配分は難しいた め、順次買取要望への対応等、限定 的な事業実施とする。	○	×			・「都市計画道路の整備プログ ラム」(H28.9)の策定にあた り、都市計画道路の整備の進め 方(重点化の考え方)を改めて 整理した結果、本路線におい ては完了予定年度を見直すこと となった。 ・なお、用地交渉を行う等、事 業進捗を図った。	・今後も限られた予算の中 で本路線への重点的な予算 配分は難しく、事業完了に は長期間を要するが、順次 買取要望への対応等、限定 的な事業実施とする
					39%	40%				
H26 -05	住宅市街地総 合整備・住宅 地区改良事業 [都市整備局] 生野区南部地 区整備事業	事業開始 H7 完了予定 H31 総事業費 573億円 既投資額 290億円 進捗率 51%	事業 継続 (A)	今後は、生野区役所と一体とな り、まちづくり協議会と連携・協働し て、権利者に対し粘り強い交渉を行 いながら、用地取得を行い、道路・公 園や受け皿住宅の整備を計画的に進 め、より一層の事業展開を行い、そ れにより、平成31年度の事業完了を 目指して重点的に実施していく。	○	○			地区内の道路整備等を進める ため、移転先となる都市再生住 宅13号館の設計に着手した (H29年度着工予定)。 土地所有者が不明な用地につ いて、H29年度取得に向けた法 的手続きに着手するなど、難航 する用地の買取手続きを進め た。	
					53%	53%				
H26 -06	住宅地区改良 事業 [都市整備局] 旭住宅地区改 良事業	事業開始 H12 完了予定 H31 総事業費 54億円 既投資額 26億円 進捗率 48%	事業 継続 (B)	今後は、平成31年度の事業収束を めざして、権利者に対し粘り強い交 渉を行いながら、用地取得を進め、 計画的な改良住宅の建設・施設整備を 行っていく。	○	○			権利者と粘り強く交渉を行った 結果、測量に前向きな姿勢を示 した権利者について、交渉を継 続するとともに平成29年度の測 量実施に向けた準備を進めた。	
					48%	48%				

事業再評価後の取組状況 - 平成26年度 再評価実施事業

【対応方針】 事業継続(A)：完了時期を宣言し、重点的に実施するもの
 事業継続(B)：予算の範囲内で着実に継続実施するもの
 事業継続(C)：限定的な実施にとどまるもの

【自己評価結果】 ○：取組方針に沿って事業を実施できた
 ×：取組方針に沿って事業を実施できなかった。

番号	事業種別 事業名	事業の概況	対応 方針	今後の取組方針	自己評価 [進捗率]				自己評価の判定理由 (28年度の取組状況等)	改善策及び今後の取組方針等 (評価結果が×の場合)
					27年度	28年度	29年度	30年度		
H26 -07	区画整理事業 [都市整備局] 淡路駅周辺地 区土地区画整 理事業	事業開始 H6 完了予定 H32 (H39)	事業 継続 (A)	平成30年度には地区東エリアの都 市計画道路淡路駅前線の完成、高架 切替後に地区西エリアのまちの整備 を行い、平成39年度の換地処分を目 指し、引き続き連続立体交差事業と 連携し、事業の効率的実施を図って いく。	○	○			・関連する連続立体交差事業の 事業期間が平成39年度まで延伸 することに伴い、区画整理事業 の事業期間も見直し、平成39年 度まで延伸することを公表し た。 ・平成28年度の取組としては、 建物移転・道路整備工事・埋設 管工事を実施し、進捗率92%を 達成した。建物移転補償契約は 1戸実施し、全915戸中残り4戸 となった。また都市計画道路淡 路駅前線の道路本整備工事に着 手した。	
		総事業費 368億円 既投資額 307億円 進捗率 83%			90%	92%				
H26 -08	港湾整備事業 [港湾局] 南港東地区国 際物流ターミ ナル整備事業	事業開始 H12 完了予定 H33	事業 継続 (C)	国は、直轄事業として、平成28年 度の暫定供用をめざして進めている 国際コンテナ戦略港湾の施設整備(夢 洲C12延伸・主航路浚渫等)に続いて、 岸壁整備の促進を図る予定であり、 本市としても、国直轄事業の進捗を 踏まえて埠頭用地の整備を進めてい く。	○	○			国直轄事業である岸壁整備が進 まなかったため、埠頭用地の整 備も進めていないため。	
		総事業費 48億円 既投資額 7億円 進捗率 15%			15%	15%				
H26 -09	都市再生整備 事業 [港湾局] 咲洲コスモス クエア地区ペ デストリアン デッキ整備事 業	事業開始 H22 完了予定 H29 (H32)	事業 継続 (B)	整備計画ルート上の民間土地の開 発が進むよう、土地所有者と引き続 き協議する。	×	×			整備計画ルート上の民間土地の 開発が進まず、ペデストリアン デッキ整備事業に着手できな かったため。	平成29年5月の地区計画変更 による用途緩和等により、 整備計画ルート上の民間開 発が進捗する可能性が高 まってきている。 引き続き土地所有者との調 整を進め、ペデストリアン デッキの整備を進める。
		総事業費 8.9億円 既投資額 2.7億円 進捗率 30%			30%	30%				

事業再評価後の取組状況 - 平成27年度 再評価実施事業

【対応方針】 事業継続(A)：完了時期を宣言し、重点的に実施するもの
 事業継続(B)：予算の範囲内で着実に継続実施するもの
 事業継続(C)：限定的な実施にとどまるもの

【自己評価結果】 ○：取組方針に沿って事業を実施できた
 ×：取組方針に沿って事業を実施できなかった。

番号	事業種別 事業名	事業の概況	対応 方針	今後の取組方針	自己評価 [進捗率]				自己評価の判定理由 (28年度の取組状況等)	改善策及び今後の取組方針等 (評価結果が×の場合)
					28年度	29年度	30年度	31年度		
H27-01	街路 [建設局] 津守阿倍野線 整備事業	事業開始 H8 完了予定 H30 総事業費 67億円 既投資額 48億円 進捗率 73%	事業 継続 (A)	本路線は、道路ネットワークの形成や地域の防災機能向上のためにも整備が必要な路線として予算を確保し、用地取得完了後、集中的に工事を実施するなど、完了予定年度での完成に向けて重点的に事業を実施する。	○				・「都市計画道路の整備プログラム」(H28.9)の策定にあたり、都市計画道路の整備の進め方(重点化の考え方)を改めて整理した結果、本路線においては予定年度での完了を見込んでいる。 ・なお、取組方針のとおり重点的に予算を確保し、工事を実施した。	
					78%					
H27-02	街路 [建設局] 淀川北岸線 (菅原)整備 事業	事業開始 H13 完了予定 H32 (H38以降) 総事業費 147億円 既投資額 35億円 進捗率 24%	事業 継続 (B)	今後も予算の範囲内で着実な事業実施に努め、完了予定年度の完成に向けて取組む。	×				・「都市計画道路の整備プログラム」(H28.9)の策定にあたり、都市計画道路の整備の進め方(重点化の考え方)を改めて整理した結果、本路線においては完了予定年度を見直すこととなった。 ・なお、予算の範囲内で用地取得を実施した。	・今後も予算の範囲内で着実な事業実施に努める。
					26%					